

た雲南通志に、五色石斛出祿勸普渡河石壁紺紅者佳といへるものは、ともに國産いまだ詳ならず、

釋名

すくなひこのくすね延喜式本草按に少名彥命は皇朝醫藥の祖神なり、くすねは即くすりの義、

蓋し太古の時、少名彥命此藥を以て衆病を療せしより、かゝる名は出來しものなるべし、凡人の

名を以て藥名とせしものは、我のみならず、徐長卿劉寄奴の類、西土にもいと多し、いはくすり、上、

按に、此草岩上に叢みたから、聚方大類按にみたからは、即御寶の義、上古の人此藥を尊ぶ事、猶珍寶

の如くなりしより、名付しなるべし、いはとくさ、千金方藥注本草啓蒙、按に此も、石ちくらん、草

啓蒙薩摩方言、按にせん同上、紀伊方言、按にせん同上、石斛神農本草經按に石は石上に生、林蘭同上

杜蘭證類本草引按に蘭はその花葉頗る建蘭に似たるによりて名づく、按に林杜の字疑らくは

原一は正字一は誤字なるを、後に誤りて一名とばせしものなるべし、凡本草中この類おほく有

金釵石斛本草衍義按に宗奭云、金釵石斛、蓋後人取象而言之、時珍云、其莖如金釵之般故名、今蜀人

裁之呼金釵花、荆州記云、來陽龍石山多石斛、精好如金釵是矣、千年潤本草綱目、典籍便覽、按に時珍

長生草物理小識按に即、

〔重修本草綱目啓蒙〕石斛十六石斛ス。○。○。○。ナ。○。○。○。ヒ。○。○。○。コ。○。○。○。ノ。○。○。○。ク。○。○。○。ス。○。○。○。子。○。○。○。和。○。○。○。名。○。○。○。イ。○。○。○。ハ。○。○。○。グ。○。○。○。ス。○。○。○。リ。○。○。○。同。○。○。○。上。○。○。○。ス。○。○。○。ク。○。○。○。ナ。○。○。○。ヒ。○。○。○。ゴ。○。○。○。ス。○。○。○。リ。○。○。○。大。○。○。○。同。○。○。○。類。○。○。○。ミ。○。○。○。タ。○。○。○。カ。○。○。○。ラ。○。○。○。同。○。○。○。上。○。○。○。イ。○。○。○。ハ。○。○。○。マ。○。○。○。メ。○。○。○。イ。○。○。○。ハ。○。○。○。ド。○。○。○。ク。○。○。○。サ。○。○。○。セ。○。○。○。ン。○。○。○。ゴ。○。○。○。ク。○。○。○。組。○。○。○。州。○。○。○。チ。○。○。○。ク。○。○。○。ラ。○。○。○。ン。○。○。○。薩。○。○。○。州。○。○。○。一。○。○。○。名。○。○。○。聚。○。○。○。方。○。○。○。

長生草物理小識 百丈鬚藥譜 釵斛醫級 石斛草康熙

今ハ和漢通名、山中岩石上ニ生ズ、莖ハ木賊ノ如クニシテ細ク、黃綠色、寸餘一節、節ゴトニ一葉ヲ

生ズ、形竹葉ニ似テ小ク、厚ク光リアリ、莖長サ三四寸多ク、叢生ス、夏舊莖ノ節ノ下ニ二花並ビ生

ズ、形白及花ニ似テ白色、又粉紅色ナル者アリ、紅色ナル者ハ稀ナリ、筑前土州ニハ淡黃花カル者